

第1回ファイナンシャル・ウェルビーイング
シンポジウム（2025年6月11日）

国民のファイナンシャル・ ウェルビーイング向上に向けて

第一生命経済研究所
研究理事 村上 隆晃



株式会社 第一生命経済研究所



Dai-ichi Life Group



村上 隆晃（むらかみ たかあき） Takaaki Murakami

総合調査部 研究理事

専門分野：CX・マーケティング、well-being

略歴	• 1990年3月 東京大学文学部卒業 • 1990年4月 第一生命保険 入社 • 1997年4月 第一生命経済研究所 出向 • 1998年7月 大蔵省財政金融研究所（現、財務省財務総合政策研究所） 研究員 • 2000年7月 第一生命経済研究所に帰任 • 2012年4月 第一生命保険に帰任 • 2015年4月 より現職
社外役職等	• 日経Well-being Initiative 「社会指標委員会」 委員
所属学会	• 日本保険学会 • 生命保険経営学会 • 日本行動計量学会 • ウェルビーイング学会
最近の研究テーマ	• Society5.0 for SDGs、well-being、幸福学、CX関連全般

ファイナンシャル・ウェルビーイングとは

- 世帯収入に対する主観的満足度であり、経済的な安心感を持ち、現在から将来にかけて人生を楽しむための選択ができる状態

ファイナンシャル・ウェルビーイングの定義

- 日本・金融経済教育推進機構（J-FLEC）

- ✓ 自らの経済状況を管理し、必要な選択をすることによって、現在および将来にわたって、経済的な観点から一人ひとりが多様な幸せを実現し、安心感を得られている状態

- アメリカ・金融消費者保護局（CFPB）

- ✓ 現在および将来の金銭的な債務を十分に支払うことができ、将来の自身の経済面に安心感を持ち、人生を楽しむための選択ができる状態

- イギリス・金融年金サービス局（MaPS）

- ✓ 経済的に安心でき、コントロールできていると感じる状態。つまり、現在の支払いができ、予期しない支出に対応し、経済的に健全な将来への軌道に乗っていると感じることである
- ✓ 一言でいうと、経済的な自信と能力がある状態

- 経済協力開発機構（OECD）

- ✓ 経済的な健全性が確保され、将来の安心が図られていること

アメリカでは人生を楽しむ選択肢を産み出すファイナンシャル・ウェルビーイングに注目

□ 以下の4つの要素を基にアメリカ版ファイナンシャル・ウェルビーイング 尺度を測定

ファイナンシャル・ウェルビーイングの4つの要素

	現在	将来
経済的な 備え	月々や日々の家計をコントロールすること	経済的なショックを吸収する能力があること
選択の自由	人生を楽しむための選択ができる経済的な自由があること	経済的な目標を達成するための軌道に乗っていること

(出所) Consumer Financial Protection Bureau. (2017). "Financial well-being in America".P14より第一生命経済研究所にて翻訳

G20/OECDでもファイナンシャル・ウェルビーイングの概念整備や測定手法の開発を提案

G20/OECDのファイナンシャル・ウェルビーイング枠組み試案

ファイナンシャル・ウェルビーイングとは、一般的に以下の状態と表現できる

	個人が経済的なニーズ や債務の管理をできる 状態	個人がマイナスの経済 的ショックに対処できる 状態	個人が希望や目標を追 求し、チャンスをつかむ ことができる状態	個人が経済生活に満足 し、自信を持っている状 態
客観的側面 (金融的な基盤) 統計、アンケート調査	必要最低限の支出の大部分を賄える所得	貯蓄、借入手段・コミュニティ・サポート・社会的セーフティネットへのアクセス	必要最低限の支出を上回る所得で、選択肢が増え、ある程度の追加支出や将来の計画のための貯蓄が可能	—
主観的側面 (感情や認識) アンケート調査	必要最低限の支出の支払いができるという自信の度合い 日々の支払いに対する苦悩・心配 日々の財務状態に関する認識	経済的ショックに対処する能力や準備があるという自信の度合い 経済的ショックへの抵抗に関する苦悩・心配 経済的ショックへの対処力に関する認識	希望や目標を追求する能力に対する自信の度合い 自身の将来の財務状態に対する自信の度合い 金銭面での余裕から人生を楽しめている状態	財務状態に関する満足度 財務状態に関するストレスや不安の度合い

(出所) G20議長国 (ブラジル) / OECD「ファイナンシャル・ウェルビーイングに関する G20政策ノート」(2024) より第一生命経済研究所にて翻訳

ファイナンシャル・ウェルビーイング分科会でもアンケート調査を実施

1. 調査名：「ファイナンシャル・ウェルビーイングに関する実態調査」(2025年)
2. 調査対象：全国の18～79歳
3. 調査方法：WEBアンケート調査
4. 調査時期：2025年1月
5. サンプルサイズ：11,022
6. サンプルの属性(年代別)

18－19歳	274
20－29歳	1,339
30－39歳	1,579
40－49歳	2,070
50－59歳	1,966
60－69歳	1,848
70－79歳	1,946

7. 備考：端数処理の関係上、割合については合計で100%とならない場合があります

「ファイナンシャル・ウェルビーイング度」を以下のように定義

「ファイナンシャル・ウェルビーイング度」の定義

【現在に対する満足度】・・・(A)

現在の以下の生活に関する分野について、あなたはどの程度満足していますか。

「資産形成や資産活用など、足元および将来の計画」

※「全く満足していない」を0点、非常に満足しているを10点としてお答えください。

【将来に対する満足度】・・・(B)

5年後（2030年1月頃）の以下の生活に関する分野について、あなたはどの程度満足していますか。

「資産形成や資産活用など、足元および将来の計画」

※「全く満足していない」を0点、非常に満足しているを10点としてお答えください。

ファイナンシャル・ウェルビーイング度	条件
高い	(A)が7以上かつ (B)が8以上
中ぐらい	「高い」「低い」以外の該当者
低い	(A)が4以下かつ (B)が4以下

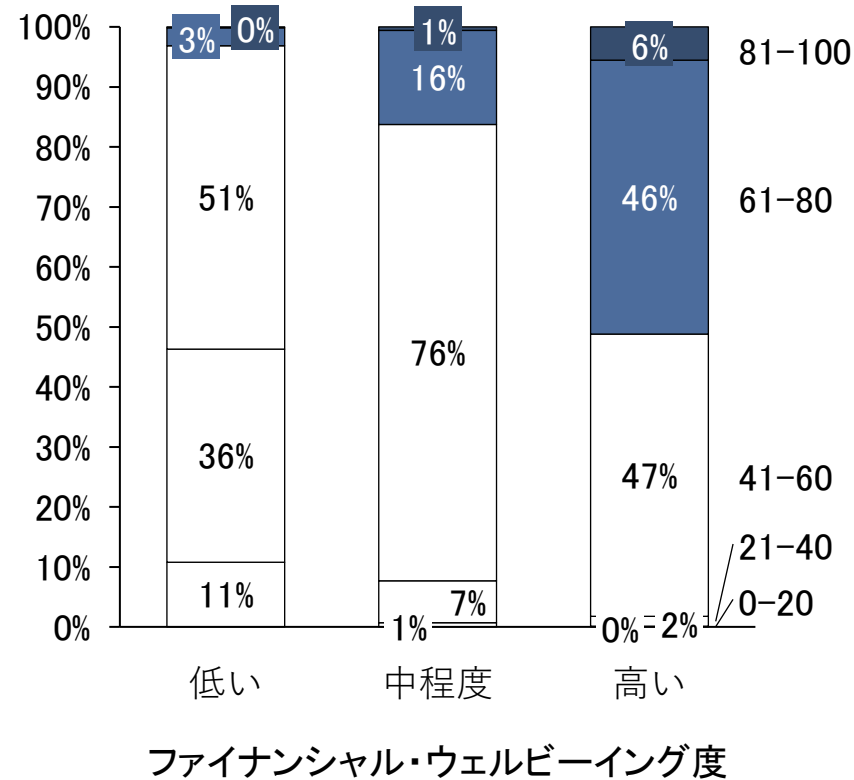
(出所) ウェルビーイング学会/ファイナンシャル・ウェルビーイング分科会資料

「ファイナンシャル・ウェルビーイング度」はアメリカ版とも相関あり≡妥当な尺度

日本版とアメリカ版ファイナンシャル・ウェルビーイング度の関係

相関係数：0.580

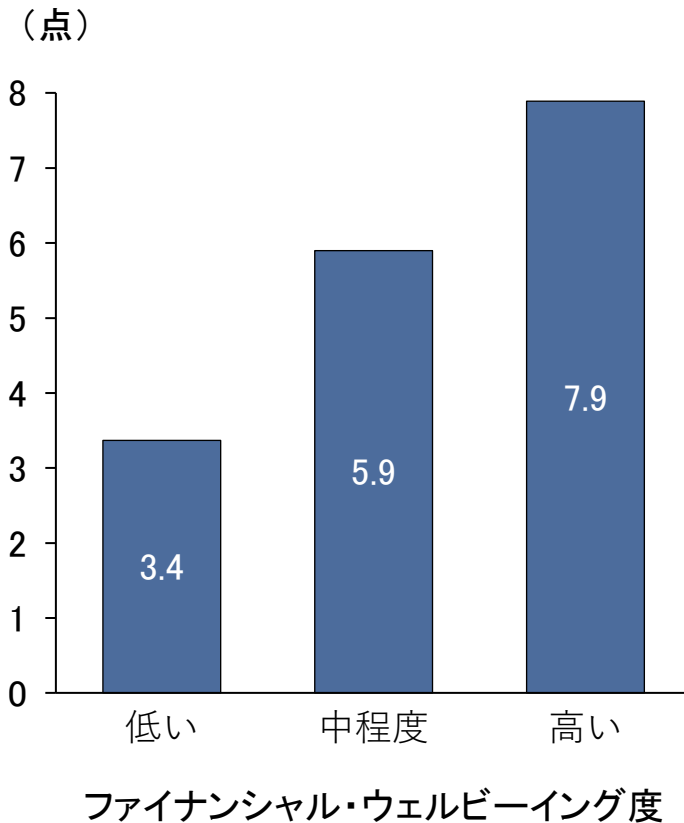
アメリカ版FWB点数区分別構成比



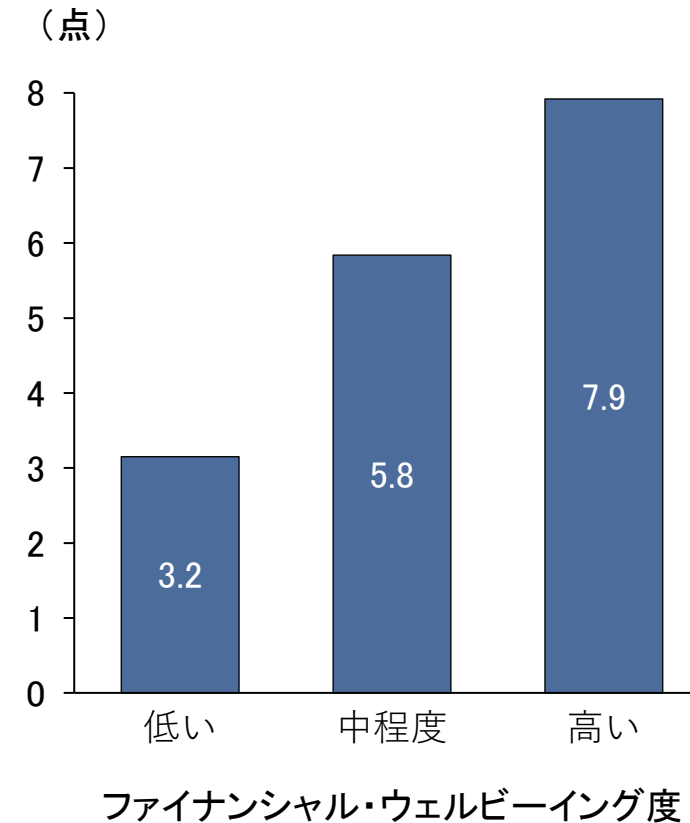
「ファイナンシャル・ウェルビーイング度」が上昇すると、ウェルビーイングも向上

ファイナンシャル・ウェルビーイング度とウェルビーイング（現在と将来の生活満足度）の関係

【現在の生活満足度】



【将来（5年後）の生活満足度】



ファイナンシャル・ウェルビーイングを向上するために必要な4つのステップを提示

ファイナンシャル・ウェルビーイングを向上するための4つのステップ

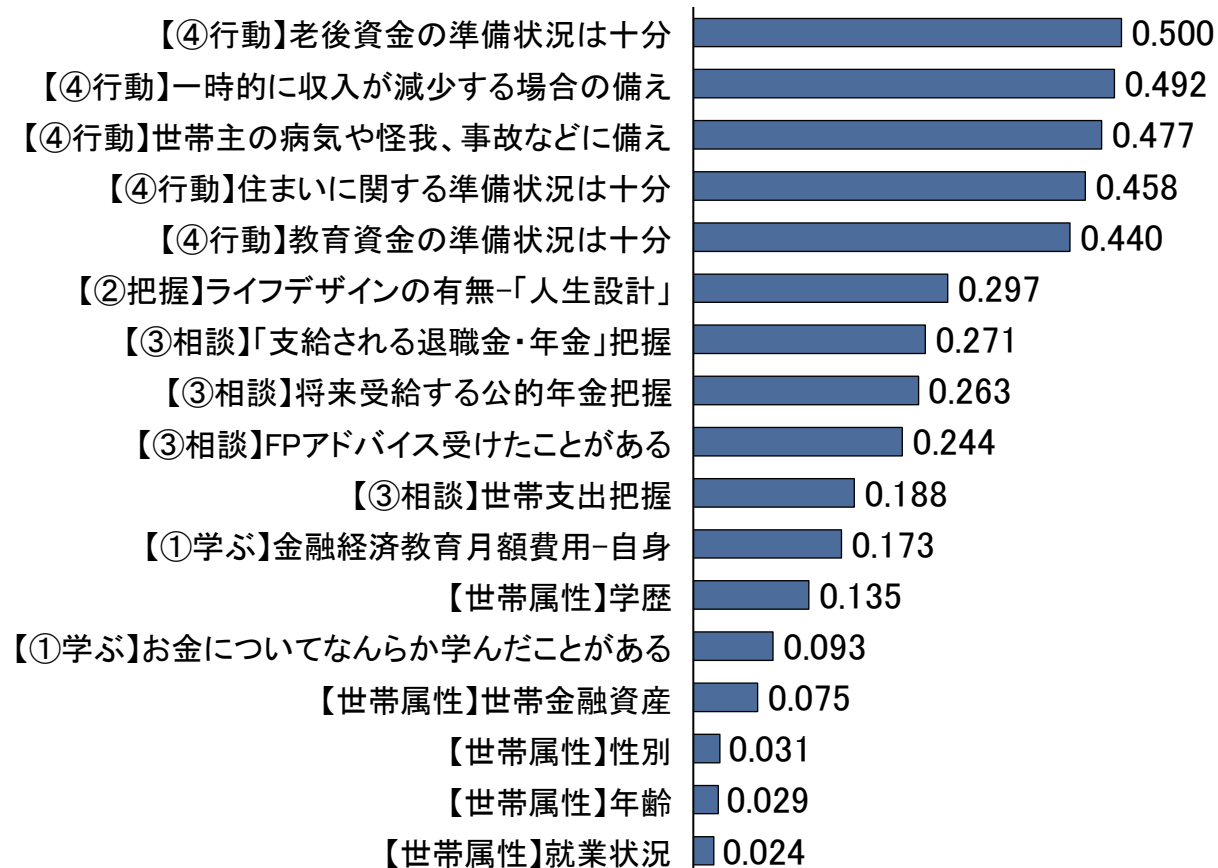


(出所) ウェルビーイング学会/ファイナンシャル・ウェルビーイング分科会資料

4つのステップに取り組むことで、ファイナンシャル・ウェルビーイングが向上

4つのステップとファイナンシャル・ウェルビーイング度の相関は、①学ぶ<②把握、③相談<④行動
→④行動にまで至ることが特に重要

「ファイナンシャル・ウェルビーイング度」と4つのステップとの相関



- ❑ ファイナンシャル・ウェルビーイングは近年国内外で注目度が上昇、国の政策としても取り組みが進む
- ❑ ファイナンシャル・ウェルビーイングを引き上げることで、人々が実感する全体的なウェルビーイングも向上
- ❑ ファイナンシャル・ウェルビーイングの引き上げには、①学ぶ、②把握、③相談、④行動の4つのステップを回すこと→行動に至ることが重要